

神のみこころ#1: 宇宙における神のみこころの奥義とは、究極的に、キリストのからだとしての召会を通して、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げることである

2020/5/25-31 OL全文と御言葉は『朝毎の食物』を使って下さい

Summary:

I. 私たちは、主のみこころ(will)が何であるかを理解する必要があります。**II.** 神のみこころとは、神が欲すること、また神が成就しようとすることです：**A.** 神には永遠のみこころがあり、それは彼の永遠の定められた御旨(purpose)の源です。**B.** 神は永遠であって、始まりや終わりが無いので、彼のみこころも永遠です。このみこころは宇宙の起源の中心にあります。**C.** 神がご自身のみこころのために万物を創造したのは、ご自身の定められた御旨を完成し、成就するためです。**D.** 神のみこころは、キリストに集中しており、キリストが万物のうちで第一位となることです。**E.** 神はキリストと召会を持つことを欲しています。神のみこころは、キリストのからだとしての召会を得ることです。**F.** 神はキリストの中でその霊として、今や私たちの内側で働いており、彼の永遠のみこころを完成し、新エルサレムを持ちます。**III.** 神はみこころの大いなる喜びにしたがって、私たちを子たる身分へとあらかじめ定められました：**A.** 神にはみこころがあり、その中には彼の大いなる喜びがあります。神の大いなる喜びは、彼のみこころから出てきたものであり、彼のみこころの中に具体化されています。ですから、彼のみこころが最初に来るのです。**B.** 神の大いなる喜びは、神を幸いにします。それは神の心の願いです。生きた、愛する、定められた御旨を持つ神は確かに、心の願いを持っています。**C.** 神は彼の喜びにしたがって、彼の心の願いにしたがって、私たちを彼の子たちとなるようにあらかじめ定められました。神は世の基が置かれる前から、私たちを聖(きよ)くなるようにと選びました。聖くされることは、過程、手続きです。神の子たちになることが目的、目標であり、それは私たちが神の御子に結合され、神の長子のかたちに同形化されるという事柄です。**IV.** 私たちは、「みこころの熟慮にしたがってすべての事柄を行なう方の定められた御旨により、あらかじめ定められていたのです」(エペソ1:11)：**A.** 神のみこころは神の意図(intention)であり、神の熟慮(counsel)は、彼が彼のみこころ、彼の意図を完成する方法を考えることです。**B.** 神のみこころにしたがって、三一が世の基が置かれる前に会議を持って、熟慮し、決定しました。それが神の決定されたみこころです。**V.** 神のみこころは奥義として神の中に隠されていたので、エペソ1:9は、「みこころの奥義」について語っています：**A.** 永遠において神にはみこころがありましたが、このみこころは彼の中に隠されていました。ですから、それは奥義でした。**B.** 神は彼の心の喜びの中で、また彼の知恵と思慮の中で、この隠された奥義を私たちに知らせてくださいました。それは、キリストにある神の啓示を通して、すなわち、キリストの肉体と成ること、十字架、復活、昇天を通してです。**VI.** 究極的に、宇宙における神のみこころは、キリストのからだとしての召会を通して、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げることです：**A.** 神の永遠の意図は、

時代の満了時のエコノミーにおいて、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げることです。**B.** すべての時代における神の経綸を通して、すべてのものはキリストの中で、新天新地においてかしらにつり上げられます。**C.** サタンの目標は、神の被造物を腐敗させ、混乱を引き起こすことです。宇宙全体は崩壊の堆積であり、それは、サタンが自分自身を死の要因として、神の被造物の中へと注入することによって引き起こされました。神の救いは、私たちを墮落した、罪深い状態から救うことであるだけでなく、また崩壊の堆積から救うことでもあります。**D.** 神はキリストのからだとしての召会を通して、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げることによって、万物をキリストの下に服従させます。召会が率先してキリストの中でかしらにつり上げられるとき、神は道を得てすべてのものをかしらにつり上げます。私たちは神聖な分与を通してかしらにつり上げられます。**E.** 神の回復の道は、キリストがサタンに相対すること、命が死に相対すること、光が暗やみに相対すること、秩序が混乱に相対することです。私たちは命の中に、また光の下にいるなら、混乱から救い出され、秩序、調和、一の中へともたらされます。**F.** 新エルサレムを中心とする新天新地において、すべてのものはキリストの中でかしらにつり上げられます。私たちは啓示録21章で、かしらを見て、かしらの周りにあるからだを見て、都の光の中を歩くすべての諸国民を見ます。全宇宙は、透明な都を通して照り輝く光の中で、かしらにつり上げられます。

Crucial Point(1): 神のみこころを理解して、ビジネス・ライフと生活と召会生活を送らなければならない

エペソ5:17 こういうわけで愚かであってはなりません。かえって、何が主のみこころであるかを理解しなさい。**1:4-5** すなわち、この方は、愛の中で、御前に聖く傷のない者になるようにと、世の基が置かれる前から、キリストの中で私たちを選び、みこころの大いなる喜びにしたがい、イエス・キリストを通して、私たちを子たる身分へと、彼ご自身へあらかじめ定められました。

OL1: 私たちは、主のみこころが何であるかを理解する必要があります。神のみこころとは、神が欲すること、また神が成就しようとすることです。

OL2: 神はみこころの大いなる喜びにしたがって、私たちを子たる身分へとあらかじめ定められました。

OL3: 神のみこころにしたがって、三一が世の基が置かれる前に会議を持って、熟慮し、決定しました。

神のみこころには奥義、各時代にわたって隠されてきた奥義があります。宇宙は奥義です。なぜ天があり、なぜ地が存在するのでしょうか？なぜ宇宙には無数の項目があるのでしょうか？なぜ人はこの地上にいるのでしょうか？これらの疑問はみな奥義であり、多くのさまざまな哲学を引き起こしてきました。神のみこころである奥義は、使徒たちを通して召会に知らされました。

神のみこころの奥義は、私たちが幸いな人になることではありません。今日は、私たちが完全に幸いになる時ではありません。なぜなら、時はまだ熟していないからです。多くの人は十分なビジョン、あるいは啓示を持っていないので、召会生活で実際に何が起きているのか、わからないのです。彼らは、私た

ちはここでただすばらしい時を持っていると思います。しかし、これは神のみこころの奥義ではありません。この奥義は、神がご自身を私たちの中へと分与して、ご自身のために召会を生み出しておられることです。これが、各時代にわたって隠されてきた奥義です。

エペソ 1:4 で、神は私たちが聖くなるようにと選ばれたことを見ます。しかしながら、聖くなることは手続きであって、目標ではありません。目標は子たる身分です。私たちは子たる身分へとあらかじめ定められました。言い換えれば、神が聖くなるようにと私たちを選ばれたのは、私たちが彼の子たちとなるためです。ですから、聖くなることは過程、手続きですが、神の子たちになることが目標です。

多くの人が主イエスを信じ、血で洗われ、その霊によって再生されましたが、まだこの世的で俗的で、生活には何の聖のしるしもありません。彼らは隣人、友人、親族と全く同じです。それにもかかわらず、彼らは召会であることについて語るのです。神にとって何という恥であり、召会にとって何という恥でしょう！ 召会は、神へと分離され、神の性質で浸透され、完全に聖別されて神の子たちのように生きる団体の人として構成されています。

適用：在職青年・大学院生編

あなたは神のみこころを理解しなければ、愚かな人になってしまいます。エペソ3:9 それはまた、万物を創造された神の中に、各時代にわたって隠されてきた奥義のエコノミー[経綸]が何であるかを、すべての人を照らして明らかにするためであり、最初に神ご自身の中で神のみこころがあり、次にみこころの熟慮あるいは、協議に基づいて、御旨が出てきます。この御旨が神のエコノミーです。神は神のエコノミーのために万物を創造されました。あなたがこの世の基が置かれる前から神によって選ばれ、あらかじめ定められたのは、神のエコノミーのためです。ですからあなたには第一に神のみこころ、その次にみこころにしたがった生活があるべきです。決して第一にビジネス・ライフ、第二に神のみこころの順番にははいけません。なぜならあなたの生活はみこころのためになければ価値がないからです。

エペソ5:17の「主のみこころを理解しなさい」は召会に関するビジョンと経験を提示した後の「日常の歩みの中で必要とされる生活」の「生活の詳細」で述べられた言葉です。言い換えると、あなたは神のみこころを生活の詳細の中に落とし込む必要があるのです。ある人たちは神のエコノミーを理解した後、生活の煩わしさに関わりたくないの、簡単な仕事に就こうと考えます。この考え方は間違っています。あなたは神のエコノミーのビジョンを日常生活に結び付ける必要があります。

例えばあなたは、会社における要求や競争は厳しいものがあるので、ビジネス・ライフを第一にして真剣に取り組まなければならないと考えるかもしれません。しかし神があなたに要求しているのは、ビジネス・ライフを真剣にやっちはいけないということではありません。神の要求は、ビジネス・ライフを神のみこころのためという地位に置くことです。あなたは自分の中の神のエコノミーに関する誤解を解くために、主と交わる必要があります。「主よ、私は神のみこころを第一にし、ビジネス・ライフを第二にしたいです。しかもビジネス・ライフと真剣に向

き合います。主よ、神のみこころに関する私の誤解を取り除き、私のビジネス・ライフをみこころのゆえに引き上げてください。アーメン！」

申命記11:18 それゆえ、あなたがたは、私のこれらの言葉を、あなたがたの心と魂に据えなければならぬ。またそれを手に結び付けて、しるしとしなければならない。それはあなたの目の間の覚えとならなければならない。19 それをあなたがたの子供たちに教え、あなたが家に座っている時も、道を旅する時も、横になる時も起きている時も、それについて語らなければならない。20 そして、これをあなたの家の門柱とあなたの城門に書き記さなければならない。

18節FN「心と魂に据えなければならぬ」：私たちは言葉としてのキリストを心と魂に据えることによって、またこの言葉を私たちと関係のあるすべての事柄に結び付けることによって、神を愛する必要があります。

祈り：「おお主イエスよ、私はまず主のみこころを理解する必要があります。なぜなら三一の間のみこころの協議から御旨、神のエコノミーがあり、神のエコノミーに従って万物は創造されたからです。私たちの存在はみこころのためです。アーメン！ 更に私はみこころを私の生活の詳細に、実際に落とし込まなければなりません。神のエコノミーのために、実際的にキリストを良き地として経験し、享受するのは実生活においてです。このように見ると、私の実生活と召会生活は何と意義があることでしょうか。」

Crucial Point(2): 召会は率先して、神聖な分与に開き、あずかって、キリストの中でかしらにつり上げられる。最終的にキリストの中で万物はかしらにつり上げられる

エペソ 1:10 時代の満了時のエコノミー[経綸]へ至るためです。すなわち、キリストの中で、天にあるもの地にあるもの、すべてのものを、彼の中でかしらにつり上げようとされたのです。…22 また神は、万物をキリストの足の下に服従させ、そして彼を万物の上にかしらとして召会に与えられました。

エペソ 4:15 むしろ、愛の中で真実を固く保って、私たちはすべての事で、彼すなわちかしらであるキリストの中へと成長し込むのです。

I コリント 11:3 あなたがたに知ってもらいたいのですが、キリストはあらゆる人のかしらであり、男は女のかしらであり、神はキリストのかしらです。

OL1: 究極的に、宇宙における神のみこころは、キリストのからだとしての召会を通して、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げることです。

OL2: 神の救いは、私たちが墮落した、罪深い状態から救うことであるだけでなく、また崩壊の堆積から救うことでもあります。

OL3: 召会生活において、私たちは率先してキリストの中でかしらにつり上げられつつあります。このために、私たちは命において成長する必要があります。

神が宇宙を創造された時、宇宙のすべてのものは一の中にありました。…サタンは反逆のゆえに、人の墮落が続き、創造におけるこの本来の一は荒廃させられました。それによって、宇宙全体が混乱の中へともたらされました。サタンは全被造物の中へと死を入り込ませることによって、創造における宇宙の

一に損傷を与えました。すなわち、死は創造主と被造物との関係を断ち切ったのです。言い換えれば、サタンが死を宇宙の中へともたらしたとき、宇宙は神から切り離され、宇宙の一は失われました。こういうわけで、宇宙には完全な調和がないのです。

しかし神は、キリストの中で、すべてのものをかしらにつり上げる、すなわちキリストを万物のかしら、また万物の上にかしらとするという永遠のご計画を持っておられました。ご自身の被造物の間の一を回復する神の方法は、キリストの中でご自身を命として私たちの中へと分け与えることです。1:22は、神はキリストを万物の上にかしらとして与えられたと言います。これは、彼が召会のかしらであるだけでなく、万物の上にかしらであることを示します。神はキリストを万物の上にかしらとして召会「に」与えられました。この小さい言葉「に」は、伝達を暗示します。それはキリストの頭首権が、召会に伝達されつつあることを示しています。これはある意味で、私たちが、万物の上のキリストの頭首権にあずかることができることを意味します。私たちはかしらではありませんが、頭首権にあずかることができます。…神の恵みによって、私たちはみな言わなければなりません、「主よ、私たちがここにいるのは、率先してかしらにつり上げられるためです。主よ、私たちがキリストの中でかしらにつり上げてください。私たちは崩壊の堆積の中にとどまっていたくありません。私たちはあなたの中でかしらにつり上げられることによって、崩壊から救い出されなければなりません」。崩壊の中から連れ出された後、あなたはすべてのものの上にいるでしょう。これが起こるまで、あなたは大統領より上であると言う確信はないでしょう。救われたのに、かしらにつり上げられていないので、まだ堆積の中にとどまっていることがあり得るのです。

召会の中でかしらにつり上げることは命の中の事柄であるのを見ることは重要です。もし命において成長することなしに、かしらにつり上げられようとするなら、私たちは組織の中へと陥るでしょう。命の成長なしに、召会の中ですべてのものをかしらにつり上げることは、組織を持つことです。

適用: 新人及び青少年・大学生編

学校生活で例えば、自分で勉強の計画を立てたのに実行することができない、全員で話し合っただけで良い改善計画を立てたのに直ぐ実行せず結局実行しない、友人と仲良くしたいのに些細なことがきっかけで仲良くできず憎んでしまう、悪い生活習慣を変えたいのに変えられない等があります。このことは人の生活が崩壊の堆積で大混乱の中にあることを示しています。しかし主の救いを賛美します。主はあなたに命を分与して、あなたを崩壊の堆積からキリストの中で、かしらであるキリストにhead up(かしらにつり上げる)することができます。サタンの反逆と人類がサタンに騙され墮落した結果、人は自分が行いたい良いことを行う力がなく、行いたくない罪を犯してしまいます。これは罪が人の中で王として支配している状態です。[ローマ5:17](#) もし一人の違犯によって、死が一人を通して王として支配したなら、あふれる

ばかりの恵みとあふれるばかりの義の賜物を受ける者たちは、さらにいっそう一人の方、イエス・キリストを通して、命の中で王として支配します。[18](#) こういうわけで、一度の違犯を通してすべての人に罪定めが及んだように、一度の義なる行為を通して、すべての人に命の義認がもたらされたのです。

あなたが崩壊の堆積から救われるために、第一に主の中に戻り、留まるべきです。第二に神聖な命の分与に開き、自分の再生され、ミングリングされた霊を活用し、思いを霊に付けてください。主の御名を何度も呼び、御言葉を祈り読みし、御言葉を根拠に祈ってください。

祈り: 「おお主イエスよ、私は崩壊の堆積であることがわかりました。私は良いことができないだけでなく、崩壊の中で無秩序に大混乱の中にいます。しかし主を賛美します。あなたは崩壊の堆積の中の私を命の分与によって引き上げ、かしらにつり上げてくださいます。私たち召会のかしらにつり上げられて崩壊と大混乱の原因であるサタンを対処し、宇宙において神を団体的に大きく表現します。この神の永遠のエコノミーの実現のために私は毎日、朝昼晩、神聖な分与に開き、命の成長を追い求めます。アーメン!」

Crucial Point(3): パウロのように恵みを受けて、神の恵みの執事職にあずかり、コロナウイルスによって苦しんでいる人々に福音を宣べ伝える

[エペソ3:2](#) あなたがたのために、私に与えられた神の恵みの執事職について、あなたがたは確かに聞いていることでしょう。…[9](#) それはまた、万物を創造された神の中に、各時代にわたって隠されてきた奥義のエコノミー[経綸]が何であるかを、すべての人を照らして明らかにするためであり、

[ヨハネ8:12](#) こうして、イエスは再び彼らに語って言われた、「私は世の光である。私に従う者は、決して暗やみの中を歩くことがなく、命の光を持つ」。

OL1: 召会が率先してキリストの中でかしらにつり上げられるとき、神は道を得てすべてのものをかしらにつり上げます。私たちは神聖な分与を通してかしらにつり上げられます。

OL2: 私たちは命の中に、また光の下にいるなら、混乱から救い出され、秩序、調和、一の中へともたらされます。

古代の習慣によれば、王家には執事がおり、彼の務めは執事職と呼ばれました。ですから、執事職は執事の奉仕です。執事は単なる奴隷ではなく、家庭と親密な関係を持った人、家庭の案配を顧みる人でした。そのような執事職、そのような家庭の案配は、最高の行政でした。…神の行政は家庭の案配として甘く、執事職として親密です。

さらに、執事職は経綸を含んでいます。ここの経綸は時代ではなく、分与することを言っています。例えば、母親は毎朝、朝食の時、食物を子供たちに分与します。子供たちが食卓に着くと、母親は彼らに栄養になる食物を分与して食べさせます。そのような分与では、常に正しい規制が行なわれます。…食物の分与は最上の規制です。私はこれを、自分の孫について観察してきました。孫たちは…、おばあ

さんの言うことに従います。なぜなら、彼女は彼らにごちそうを分与する者であるからです。…使徒パウロはこれを、「**神の恵みの執事職**」(エペソ3:2)、神の恵みの経綸と呼んでいます。

サタンへの注入には何の行政も執事職もありません。なぜなら、サタンはこうかつにも彼自身を私たちの中に注入するからです。しかし神は甘い、親密な執事職によって、ご自身を彼の選ばれた者たちの中に造り込んでおられます。パウロの務めは、そのような執事職でした。それは恵みの経綸、すなわち恵みとしての神を彼の選ばれた者たちの中へと分与することの模範でした。この恵みの経綸、私たちの享受としての神ご自身の分与によって、命の要因が、選ばれた者たちの中へと供給されます。命の要因が彼らの中へと入るとき、彼らは起き上がって、からだの中でキリストに結び付けられます。

命があるところに、光もあります。ヨハネ1:4は言います、「**彼の中に命があった。この命は人の光であった**」。この光は命の光です。…新エルサレムは光で浸透されているので、太陽の光の必要はありません。啓示録21:23は言います、「**都の中では、太陽も月も輝く必要がない。神の栄光がそれを照らし、小羊がそのともし火だからである**」。新エルサレムには、私たちが照らす光としての三一の神の栄光があります。

光があるところではどこでも、物事は秩序の中に保たれます。仮に、ロサンゼルスに光がなかったとしましょう。何という暗やみと混乱があることでしょうか！ 命は規制し、光は制御します。召会生活の中で私たちには何の規則もありませんが、規制する命と制御する光を持っています。召会が命に満ちているとき、また光に満ちています。その時、召会の中のあらゆる人は、外側の規則によってではなく、内側の命によって規制されます。

適用: 奉仕者編

エペソ3:7 私は、神の力の活動によって、私に与えられた神の恵みの賜物にしたがい、この福音の奉仕者となりました。**8** すべての聖徒のうちで最も小さい者よりも小さい私に、この恵みが与えられたのは、キリストの計り知れない豊富を、異邦人に福音として**宣べ伝えるためであり、**

パウロは福音の奉仕者となりましたと言った後、パウロ自身は聖徒たちのうちで最も小さい者よりさらに小さい者であると言いました。これはパウロが福音の奉仕者になる恵みを受けたので、すべての人が福音の奉仕者、神の恵みの執事職になる恵みを受けることができることを示しています。

マタイ24:45 そこで、主人が家族の上に任命して、時に応じて彼らに食物を与える忠信で思慮深い奴隷は、だれであろうか？

神の恵みの執事職について、アンドリュー・ユ一兄弟のコロナウイルスによる緊急事態時の交わりを読んでください:《**人生の奥義(二)**》を利用する際には、硬くあってはいけません。福音友人に転送しても良いでしょう。ある時、私は数力所の御言葉を見つけて、声のいい聖徒に読み上げてもらい、それを人に転送し

ました。それはとてもよかったです。今は非常事態です。人が憂鬱になる時期でもあります。人は聖書の言葉を聞けば、穏やかになるはずですが、普段から聞く時間のない人でさえ、今は聞く時間があるでしょう。今はすべての人に時間があります。そのため福音の材料を送れば益となります。兄弟姉妹たちは自分で作成しても構いません。ある人には御言葉を読ませた方がいいかもしれません。よく読んでください。人は憂い、さまよっている時、特に御言葉を聞いてくれます。例えば、「詩篇」には神に訴える言葉が多くあります。「神よ、私は悩んでいます」、「神よ、私は弱っています」。読んで、聞けば、主が言われたように「すべて労苦し重荷を負っている者は、私に來なさい」となるでしょう。人は聞けば開かれます。

祈り:「**おお主イエスよ、私はパウロのように恵みを受けて、福音の奉仕者、神の恵みの執事職にあずかることができます。コロナウイルスの時、人々は苦しんでおり、悩んでいます。時に応じて食物を提供する忠信な奴隷にならせてください。機会を捉えて人々に王国の福音を宣べ伝え、家庭集会で養い、召会に繁殖と建造をもたらします。アーメン!**」

彼の復活の力 英語1175(補充259)

1. Power, exceeding great pow'r is to us,
To us who believe, us who receive!
Power that raised Christ, yes, pow'r glorious
Is giv'n to His Body, the church!
There is pow'r, pow'r, resurrection pow'r,
To the church, to the church!
There is pow'r, pow'r, resurrection pow'r,
Given to His Body, the church!
2. Power that set Christ at God's own right hand,
This pow'r is to us — yes, even us!
Power above every name that is named
Is giv'n to His Body, the church!
There is pow'r, pow'r, all-transcending pow'r,
To the church, to the church!
There is pow'r, pow'r, all-transcending pow'r,
Given to His Body, the church!
3. Power that put all things under His feet
Is ours here and now — right here and now!
Power subjecting all, power complete,
Is giv'n to His Body, the church!
There is pow'r, pow'r, all-subduing pow'r,
To the church, to the church!
There is pow'r, pow'r, all-subduing pow'r,
Given to His Body, the church!
4. Power that made Him o'er all things the Head
Is now to the church, now to the church!
Power, such pow'r, will be exhibited
O'er all through His Body, the church!
There is pow'r, pow'r, overruling pow'r,
To the church, to the church!
There is pow'r, pow'r, overruling pow'r,
Given to His Body, the church!